

# 理研会報

発行所 理研会事務局  
〒950 成田市成田950  
成田小学校内

## 新年度を迎えて

研究部長 板橋 善哉 主夫

この会報も回を重ねるが四十号に達しました。この間沢山の先生方から書状や原稿をいただきました。支接をいただきました点厚く御礼申し上げます。

行事調整も益々切実な問題となつてきている現在、会報の果たす役割も又大切な段階にきているものと考えます。この意味でも種々工夫と努力をいたしてゆきたいと思つています。

## 新年度を迎えて研究部の活動も

### △全国教研に参加して

富里南小 竹内 幸子  
日教組第十九次、日高教才十六次教育研究集会は二月七日から十日まで岐阜県で開催されました。参加者一万有余、盛大なもので有藤千江子先生(現佐一)と私は五分科会理科教育に出席し、多くのことを学ばせて頂きました。

### 一、今次教研課題

#### ①新指導要領について

基本的性格及び、子どもの上にどのような影響をもたらし、具体的に述べる。

#### ②教育課程について

これまでのを批判するだけでなく、私達の側からあるべき姿を大

ることが大切である。気体と液体、粒子概念を導入した例や三態変化で粒子概念を導入したという授業がありました。

討論の中で粒子概念は具体的にあらわれているもので物質量を指導し、どうしても粒子が必要となる時数がある。子どものイメージを大切にす。分子や原子は実態であつて粒子概念といふべきではないといふことなどが強調されました。

中学校では、はじめに温度と熱を区別し温度と温度による物の性質の変化を扱う段階、三態変化などを分子集団の集合のしかたで考へていく段階、それから熱量と本格的に扱う段階があることなどが出されました。

### ③力とエネルギー

小学校では、力の概念をどう言つていくか、力の概念の導入、量さとの関係、変形を通して物質の性質について授業がありました。

この中で力(物理)でいう力と日常語での力を区別して教へるといふこともわからぬ。どんな物でも力を加えれば弾性的に変形する。物の基本的な性質を教へること、物の速度変化から力を考へていくこと、重力の大切さなどが出されました。

中学校では、力学のみならず別にエネルギーのなみやたの重要性が出されました。また、基本概念に迫る基礎的事項を設定する必要性が指摘されました。

。高校では力の慣性指導について基本的な考へ方や磁石を使った実験、科学史を使って人間の科学的認識の誇りや発展を知ることにより正しい認識に迫ることなどが出され討論の中で、エネルギーは物が持っていること、力学の中だけでは無理といふこと、速度として仕事だけでなく熱量が大切であるといふことが強調されました。

。中学校では、回路学習の重要性が子どもの実態に即して授業があり、回路は電気工学の概念である。小学校で電球のつく原因などを聞くことによつて、子どもたちが守るべきこと考へさせることなど語けるべきであることなどが語られました。

。中学校では、二耳の電流について原子の構造、自由電子、金属導体内におけるイオンの集合と自由電子の動きなどを通して電流、抵抗を考へさせていくこと、三耳の電磁気の扱い方など授業がありました。最後に講師から理科教育は、自然科学の論理に基づき、認識過程に対応する。因果的とらえ方は基礎科学のものである。物と物との関係を調べとらえることによつて子どもに教へるには、子どもが身につけられる場、まじんと関連させることが大切であると指導がありました。

四、教育課程の問題点と自主編成、高校教育課程の問題、科学の方法と創造性、自主編成のすすめ方に

ついて討論し、講師からは、自然科学の立場、思想性についての話がありました。五、今後への課題

。来年は各県で教研の成果がいかに大変化したかを討議できるようにしよう。

。すべてを仲間にし、父母と結びつけて国民教育の中での理科教育を建設しよう。

。利便は今教研で得たものを、明日からの実践研究の展望に役立たせたいと思つていきます。

### 研究部の行事、役員を定める

五、八日の理科研究部総会で、四十四年度の行事及び決算が承認され、また全国教研参加者の竹内高藤両先生の報告があり、つづいて四十五年度行事並び予算と役員がまじりました。

### 本年度の行事予定

- ①児童生徒理科作品展(十日下旬)
- ②教育研究推進について(昨年度で同じく各都道府県)
- ③「理研会報」の発行(4号より)
- ④工場見学
- ⑤研究学校への協力
- ⑥地方理科センターへの協力(四府道小、成田中)

以上の行事の中で、昨年度までの反省として、理科作品展については出品校をあげ、全学校の作品展としたいこと、教育研究については昨年と同じよう研究団体制ではあるが、参加者数を増し、応迎のたい研究組織をつくつていきたいと思います。

こと、「理研会報」について発行部数を多くし先生方が読みやすいように配慮する。工場見学については昨年度実現できなかったもので本年はかららす実施したい。期日は未定ですが近々の調査準備等を予定している、会報の皆さんの協力をお願いいたします。

### 本年度の役員

顧問 牧野 正先生

部長 飯田和幸先生

部長 板橋善哉先生

副部長 藤崎正雄先生

理事 岡崎賢一先生

平山 信先生

柏熊 秀定先生

内沢延治先生

空井貞夫先生

手塚重夫先生

中村敬哉先生

折目隆雄先生

一部会部長(未定)

二部会部長 平山正一先生

三部会部長 近藤静観先生

四部会部長 古谷 弘先生

### 風信

成田市教育委員会では市内の児童生徒の学力向上をはかるため、市独自の研究学校を指定し、理科教育の効果的な指導法をめぐりて研究することになりました。本年度の研究指定校は、小学校Ⅱ中郷小学校、中学校Ⅱ豊田中学校にまじりました。また、標準学力検査の結果を分析し、年度末までに刊行する予定です。